

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

# 音楽とは 横への感性なり!

8

月号

2018年8月1日  
編集・発行/  
ウィーン岐阜合唱団

## 第21回定期演奏会を終えて

ウィーン岐阜合唱団 団長 臼井 博育

観測史上、異例のコースを辿る台風12号が岐阜県を直撃かと思いきや、JRに乱れがでるなどしましたがこの地方への影響は最小限ですみ、なによりも第21回定期演奏会が無事開催できた事は、本当に感謝の極みでした。

心配していたお客さまの入りも入場者数792人で例年と遜色ありませんでした。毎回行っている被災地支援は、真由子先生の丁寧な現地事情等の説明もあり106,418円の義援金が寄せられ、福島県と西日本豪雨災害に折半で送らせていただきました。

さて、「ぞうれっしゃがやってきた」の楽譜を1月に頂き7月までの7ヶ月間、平光先生、伴和子先生、伴真由子先生のご指導の下密度の濃い練習を積んできました。4月の合宿では平成15年にNHKで放映された「ぞうれっしゃがやってきた」のDVDを見、原作者である小出隆司先生の講演をお聞きしました。そのお話の中で、戦争という過酷な環境の中で命がけで動物の命、象の命を守り抜いてきた人達の努力、この曲に込められた戦争に反対し、平和を求める心が理解できました。そしてこのことは現代、未来を生きる人々へのメッセージであり私達に突きつけられた警鐘でもあると思います。世界各地から戦争を失くそう、日本も絶対に戦争をしない、加担しないという誓いを、実話をもとに作られたこの音楽物語を通して子供達と共に歌い上げることができました。

子供達の歌声は、素晴らしく伸びやかで、お客様も子供達の生き生きとした歌声、演技、ダンスには目を見張られたと思います。このことは「ながら児童合唱団」の栗木先生を初め、指導陣の皆様のご努力があっ

てのことだと思います。そして私達の演奏がおお客様の涙を誘い、万雷の拍手を頂き、多くのお客様から「良かったよ」といって頂いたのは私だけではなかったと思います。

平光先生が渾身のタクトを振りながら、時折みせる迫真の表情が私達の心に乗り移り歌の感情表現になりました。井上先生扮する園長先生の慈愛に満ちた歌声、演技、真由子先生のぞう使いの娘の素晴らしい歌声、演技は演奏会を最高潮にまで盛り上げました。

ウィーン岐阜合唱団も7月の仕上げの段階で強化練習、オケ合わせ等でご指導を受けたあたりから、全体的にピッチが上がり技術的にもレベルアップしたのではと感じています。

ウィーン岐阜合唱団の年2回の演奏会である夏の定期演奏会が終わりました。私達は、この定期演奏会でまた貴重な「宝物」を手に入れました。今後も行事は多くありますが、早速12月の第九に向け8月から練習開始です。毎週の練習こそが全ての原動力です。12月にまた1つ「宝物」を手に入れるべくみんなで心を合わせ、力を合わせて頑張りましょう。この定期演奏会の開催に当たりお手伝い頂きましたご家族の皆様、チケットを頑張って販売して頂きました団員の皆さん、準備の為に多くの時間を割いて頑張って頂きましたスタッフの皆さん、各担当の皆さん多くの方に支えられて成功することができました。改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 夏の皆勤者の皆様 (平成30年1月~7月)

#### ● 岐阜本部

ソプラノ 中村 愛子  
アルト 森島 範子  
山田 秀子  
バリトン 臼井 博育

#### ● 大垣支部

ソプラノ 河田 尚美  
山口 水篤  
アルト 小林真紀子

## ●第21回ウィーン岐阜合唱団定期演奏会

# 「ぞうれっしゃがやってきた」を観て

(作曲者 藤村先生からのご寄稿です。)

酷暑に続く逆コース台風の襲来など異常気象のなかで無事開催されたウィーン岐阜合唱団の「ぞうれっしゃ」コンサートについて、音楽総監督の平光氏よりかなり前からお知らせがありましたので、「ぞうれっしゃ」創作の愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団ほか全国の方にも宣伝してきましたので、大変楽しみに伺いました。

恒例のロビーコンサートで演奏会の雰囲気盛り上げ、第1部のウィーン岐阜管弦楽団によるメンデルスゾーンの前奏曲や伴和子さんの演奏、平光氏の若き時代の弦楽合奏曲、伴真由子さんの被災地への寄付の訴え、などでも十分満足できる演奏が続き、おおいに期待を高めたところで「ぞうれっしゃがやってきた」の演奏を迎えました。

「ぞうれっしゃがやってきた」の演奏は、平光氏が打ち上げでも言われたように、今までで一番良かったと思います。まず、平光氏の渾身の指揮、言葉を大切にシオケも合唱も表現が自在に変化する音楽づくり、そして、楽しいオケのアレンジ、ぼくもホルンをやっていたので、ゾウの鳴き声は気に入っています。

ながら児童合唱団の美しく透明感のある演奏とカッコいいダンス、インテリジェンスな井上園長ソロ、激しく心をゆさぶるような伴さんの象使いの娘ソロ、良く歌いこまれ表情豊かな合唱、な

ど、どこをとっても作者としては、満足のいくものでした。小出さんと清水さんも合唱の中で喜んでおられたと思います。

来年2019年が「本物のぞう列車が走って70年」にあたり、全国に呼びかけて様々な記念行事を計画していますので、お隣どうし、また連絡を取り合って、交流できたら素敵だなあと思っています。

これからも、ウィーン岐阜合唱団と諸先生方のご活躍をお祈りし、音楽会の感想とさせていただきます。

### 追伸

①打ち上げ会にご招待いただき、たぶん恒例であろうテーブルごとの歌唱戦や、大きな輪を作ったの愛唱曲集による全員合唱、弦楽カルテットのBGMなど、凝った打ち上げ演出にも感動でした。

②平光氏より作曲を勧められたミュージカル「とべないホタル」も清水則雄さんとのコンビですが、「ぞうれっしゃ」同様、全国でずっと歌い継がれていて、ウィーン岐阜合唱団の皆さんにも是非一度演奏していただけたら、と思っています。

藤村記一郎(「ぞうれっしゃがやってきた」作曲)

2018. 7. 31

藤村記一郎

kiichiro2003@ybb.ne.jp      zou-hotaru-kaneto@c.vodafone.ne.jp

愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団

<http://music.geocities.jp/kodomoshiawase/index.html>

日本のうたごえ全国協議会

<http://www.utago.e.gr.jp/>

愛知のうたごえ協議会

<http://aiutago.e.wix.com/onpurin>

# カウントダウンはカウントアップ

岐阜本部・バルト 坂井 俊郎

5月下旬の北欧バルト。異常気象と言われるほどの暑さでカウナスは一行を歓迎してくれた。「寒さ対策に費やしたあのエネルギーを返せ！」皆の顔はそう語っていた。そう言えば市内の多くの歩道の敷石が無造作にめくられていて、はっきり言って歩きにくい。『その訳は食事後にお話ししますね。』ガイドの山田さんは、お城や公園では饒舌に語ってくれるのに、その後このことに触れる素振りも見せず、訳が分からないことでこちらは消化どころか精神衛生上よろしくなかった。

さて、時をさかのぼること10ヶ月、友好の旅参加の意を決して校長室をノックし『すみません、来年は来れません。』と申し出た。生徒は可愛いし、学校に不満があった訳でもない。非常勤講師と2年目自治会長の二足のわらじを履くことの難しさはともかく、5月下旬からの11日間を私物化するという選択には、公私にわたりいくつか課題があった。決断する時は「今」、伝える時も「今」ということで退路を断った次第である。あることのためにこのような判断をくだすのは初めてであったが、今でも自分のしたことは正しかったと思う。リトアニア友好の旅に向けてのカウントダウンはこうして始まった。7月29日の定演を終えたばかりの今、正月からの半年を振り返るいいタイミングとなった。

(1)初体験 5年前に合唱団に入ったきっかけは、紛れもなく年末第九の合唱で、1年の前半は休眠、後半8月にお目覚めという生活リズムは2度の大阪城ホールといくつか

のコラボもあって充実感と達成感は十分あった。そんな中で今回リトアニア行きを決めたこともあって、前半からの活動のスイッチが入り、クールギリアとぞうれっしゃがやってくるの二つの物語のはじまり、はじまり。

(2)準備 手始めに岐阜市のメディアコスモスを歩き回ってニューエクスプレス社のリトアニア語教材と2冊の絵本に出会えた。教材はCD付きで、少なくともこの時点ではリトアニア語で挨拶して喝采を浴びる自分をしっかりイメージして、返却と貸出しを3回ほど繰り返しているうちに空しさを覚えた。あれほど言語学習の難しさを知り尽くしていたはずなのに…。妄想癖もここまでくれば本物。一方の絵本については、流石に借り直すことは無かったが、原作者の小出隆司さんを知るきっかけとなった。

小出さんとは高鷲での研修や合唱団設立20周年記念の際にお話を聞く機会があったが、その都度ご本人の並々ならぬ記憶力と深い動物愛に触れるのであった。愛の塊のような人である。

冒頭の歩道の話に戻るが、皆の催促を受けて山田さん曰く「最近市長が変わり、歩道のリニューアルを優先事項に挙げており、現在そこら中を剥がしているんです。」皆の関心事に政治的な背景を伝えることが面倒であったのか、忘れていただけのことか不明であったが、理由が分かって良かったという安堵感で車中には「ふうん。」が飛び交った。皆さまお疲れさま。そしてありがとう。

## ウィーン岐阜合唱団に入団して

岐阜本部 ソプラノ 辻 多恵子

歌は一人でも歌えますが、合唱は多くの人が集まって歌い仲間と声を合わせてハーモニーを作り出していくという不思議な魅力があると思います。年代も色々な人が集まって歌い、うまくいけば嬉しいし、喜びも沢山あると思います。みんなの努力によってハーモニーが生まれその努力の過程で人との触れ合いがあると思います。

今回私は、ウィーン岐阜合唱団に入団させていただきました。この合唱団の存在は年末に第九を歌う合唱団であると新聞等でその活躍が紹介されていて知っていましたが、その記事に接するたびに私も歌ってみたいと思うようになりました。参加してみたいと思いつつ十数年が経ってしまいました。それは、ドイツ語の第九が全く分かりません。そのために入団者募集の記事を読んでも躊躇してきました。今回は杉江さんの紹介もあり、入団させていただきました。入団初日、皆さんが一生懸命歌っていらっしゃる練習の場で私には続けていけるのか、歌えるのか不安、気後れがありました。しかし、ソプラノパートの新田さんに色々アドバイスをいただき、引っ張っていただき練習に参加できて、どうにか一日目が終わりました。以来、毎回平光先生の指導があり和子先生の発声練習や他の先生方の伴奏など豪華な指導者たちから大変丁寧な指導をいただいています。平光先生のユーモアを交えた指導や手の動きや全身の動作からの指導など毎回感激して大きな口を開けています。

現在は7月の演奏会に向けて合唱曲「ぞうれっしゃがやってきた」の練習中です。私はまだまだ右も左も分からないような入団数か月の初心者です。しかし、歌うことの楽しさが日々の練習に参加して込み上げてきます。

これまでに出来なかった長年の夢である第九を歌うことを私のセカンドライフとして、今後このウィーン岐阜合唱団と関わって、団員の皆さんとの触れ合いを大切にしながら、楽しく歌っていかたいいなあと思っています。よろしくお願ひします。

# 8~10月練習予定

練習時間は 18:45~20:45です。(18:30には集合しましょう)

月日	岐阜	月日	大垣
8月 9日(木)	長森コミュニティセンター	8月 10日(金)	大垣市南地区センター
8月 16日(木)	長森コミュニティセンター	8月 17日(金)	大垣市南地区センター
8月 23日(木)	長森コミュニティセンター	8月 24日(金)	大垣市南地区センター
8月 30日(木)	長森コミュニティセンター	8月 31日(金)	大垣市南地区センター
9月 6日(木)	長森コミュニティセンター	9月 7日(金)	大垣市南地区センター
9月 13日(木)	長森コミュニティセンター	9月 14日(金)	大垣市南地区センター
9月 20日(木)	長森コミュニティセンター	9月 21日(金)	大垣市南地区センター
9月 27日(木)	長森コミュニティセンター	9月 28日(金)	大垣市南地区センター
10月 4日(木)	長森コミュニティセンター	10月 5日(金)	大垣市南地区センター
10月 11日(木)	長森コミュニティセンター	10月 12日(金)	大垣市南地区センター
10月 18日(木)	長森コミュニティセンター	10月 19日(金)	大垣市南地区センター
10月 25日(木)	長森コミュニティセンター	10月 26日(金)	大垣市南地区センター

## 音楽にできること

ピアニスト: 仲代 郁代

4月新しい季節。心ときめかせて学校の門をくぐる子供たちの姿は人に希望や未来を見せてくれる。ここ数年で私は全国各地の小学校へ伺う機会が大幅に増えた。それはいわゆるアウトリーチという活動。文化施設がハコから外へ手を伸ばし芸術を様々な場へ届けようという試みだ。

学校に学ぶ子ども達に言葉の面白さ、素晴らしさを知ってもらいたい。だから興味を引くお話や仕掛けを駆使して演奏を聴いてもらう。それは私にとって真剣勝負の場だ。この一回がピアノを大嫌いになるか、大好きになるかを決めてしまうかもしれないのだ。後に子ども達の感想を読むと「すごかったとか、感動したとかある。それは嬉しいけど、それだけでいいのか、一回のすごいで終わっていいのか。そんな思いから最近では音楽を使ったワークショップを取り入れている。演奏を聴いた後に音楽の仕組みを使った自由かつ友達との協同作業を必須とする創作の時間を設けるのだ。音楽の聴く感動を受け取るのではなく、自身の発見を尊重し、肯定の感覚へ結びつける作業をする。こんなワークの感想はより具体的なものになる。(他の子どもは自分とは違う感覚を持

っていることがわかったとか。音を工夫することによって気持ちが一緒になるのが面白いとか。先生からは、普段皆の輪に入れない子が参加していて驚いたとか。着実に音楽が心に残る実感。そんな手応えをワークは作り出す。

この可能性は大きい。この数年で目に輝きのない子ども達が全国的にじわじわと増えていると私は実感する。

手をつなげば、その冷たさに驚くこともしばしばだ。朝食は取れているだろうか。過酷な環境、それにより生きる意欲を見失う子供たちが大勢いる。そんな現状だ。そんな中、音楽に出来ることがある。音楽に正解はない。だから皆でできがす。この気持ちはどうやって音にするのか。音楽で心が動く個人が感じる事を皆で共有する、他者の感じ方の違いを知り、認めることが出来る自分を肯定できる。音楽は人を繋げるツールとなる希望を生み出すツールとなる。このような力は、社会の様々な局面で切実に必要となるだろう。

(2018年4月9日中日新聞 17面より抜粋)

### ◎ 編集部からのお願い

団員の皆様から広く原稿の募集をしております。

なお、折角原稿を頂きましたが紙面の都合で当月に掲載出来ないことが、あるかもしれませんが近月中には掲載させていただきます。何卒ご了解下さいますようお願いいたします。